

環境経営レポート

2024年度版（2024年4月～2025年3月）



株式会社タズミ

発行年月日：2025年5月 31日

目次



1.環境経営方針

2.会社概要

組織図

許可内容

処理フロー図

各拠点情報

収集運搬・車両一覧

3.環境経営目標一覧

4.プラタンの森・RPF再資源化

5.環境関連法規等の遵守状況の確認、 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

6.来期の環境経営計画

7.教育訓練等記録

8.SDG s の取組み 社内

9.代表者による全体評価と見直しの結果

10.担当者からあいさつ

1.環境経営方針

環境理念

タズミは、「不要になったものを、可能な限り有効活用する」という精神で、
サーキュラーエコノミーとカーボンニュートラルを推進し、持続可能な社会形成に貢献して参ります。

行動指針

タズミの従業員は、事業活動の環境効果を良く理解し
自ら主体的取り組み皆と協力して、環境負荷低減を推進します。

1. 廃棄物の収集運搬、中間処理をはじめとする、各種サービスの提供を通して、廃棄物の削減、再利用、再資源化、省エネルギー活動及び節水等を推進します。
2. 二酸化炭素の排出抑制効果の高い廃棄物の燃料化事業を推進します。又、この事業の意義や効果について、従業員・事業者・市民への周知啓蒙活動に努めます。
3. 環境に関連する法令・規制を遵守し、継続的に汚染の予防に努めます。
4. SDG's が目指す持続可能な将来の為に、目標を立て計画をして、事業を通して実現していきます。
5. 外的要因、内的要因による課題を充分に検証し、事業のチャンスとなるように目標を立て計画し改善に取り組みます。
6. 環境管理活動の目的・目標及び施策を活動計画の中で明らかにし、全従業員がそれぞれの役割に応じて、創意をもって環境管理活動を推進します。
7. 代表者による取組状況の評価と全体的な見直しの実施により、活動状況を確認し、改善及び是正を行い、施策を推進するとともに、環境マネジメントシステムの維持、並びに継続的改善に努めます。
8. 従業員に対する環境教育を計画的に実施し、環境保全に対する意識の向上に努めると共に、従業員一人ひとりが良き企業市民として行動します。
9. 環境経営方針は、すべての従業員に周知するとともに、環境活動レポートやホームページを通じて、社外にも公開します。

2024年 5月 1日

株式会社タズミ 代表取締役 田墨幸一郎

2.会社概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社タズミ
代表取締役 田墨 幸一郎

2) 所在地

〒252-1124 神奈川県綾瀬市吉岡709
本社 吉岡リサイクルセンター

3) 認証・登録範囲

- ◆本社 吉岡リサイクルセンター
- ◆早川RPF工場
- ◆早川第2工場
- ◆早川リサイクルセンター
- ◆プラターン海老名工場
- ◆海老名第2工場

4) 環境管理責任者及び担当連絡先

- ・責任者 常務取締役 田墨 啓治
- ・担当者 管理課 永瀬 優一
- ・連絡先 TEL：0467-77-1847
FAX：0467-77-1936

5) 認証・登録対象活動

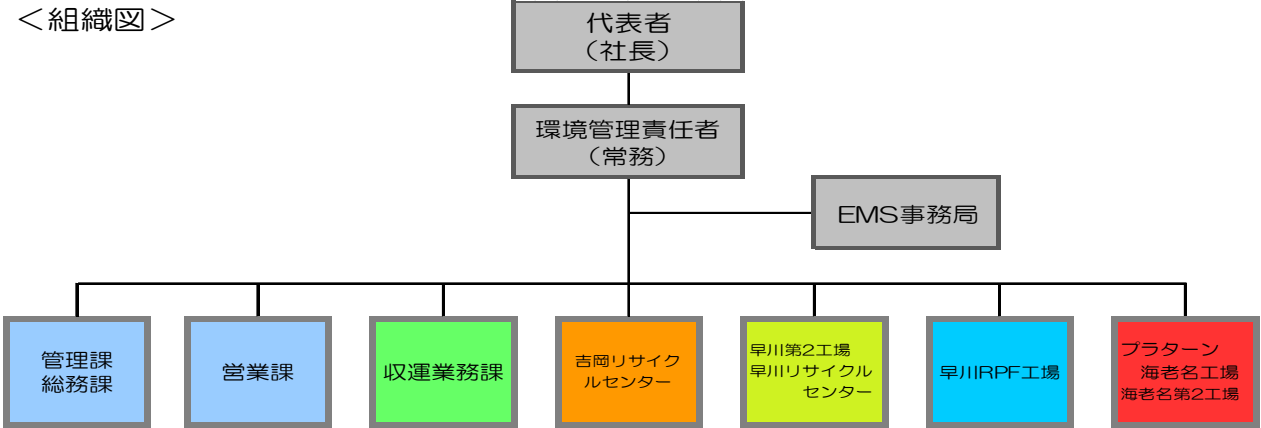
- ◆産業廃棄物・一般廃棄物の中間処理業
- ◆産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬業
- ◆再生固形燃料化業務（RPFの製造・販売）

事業規模

活動規模	単位	2022年度	2023年度	2024年度
		2022.4～ 2023.3	2023.4～ 2024.3	2024.4～ 2025.3
売上高	百万円	1,308	1,375	1,501
従業員	人	60	60	58
敷地面積	m ²	7,999	7,999	7,999
工場床面積	m ²	4,233	4,233	4,233
受入廃棄物保管 容量	m ³	2,562	2,562	2,562
処理後物保管容 量	m ³	1,745	1,745	1,745

会社概要 組織図

＜組織図＞



環境経営システムに関する責任・権限			
代表者 (社長)	環境管理責任者の任命	EMS 事務局	環境管理責任者の補佐、EMS推進事務局
	環境方針の策定		環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
	環境経営システム実施及び管理に必要な資源の準備		環境目標、環境活動計画書原案の作成
	環境経営システムの定期的な見直しの実施		環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成
	社内情報の外部公開可否決定		環境活動レポートの作成
環境管理 責任者 (常務)	環境経営システムの確立、実施及び維持するための処置	各部門長	環境活動の計画・実施の部門責任者
	社長に対し、環境経営システムの実績報告		改善活動の推進
	環境経営システムの教育・訓練の計画・実施の責任者	一般 従業員	環境活動計画に基づいた環境活動及び業務改善活動の推進
	外部からの環境に関する苦情や要望の受付窓口		小集団活動を取入れた改善活動の推進

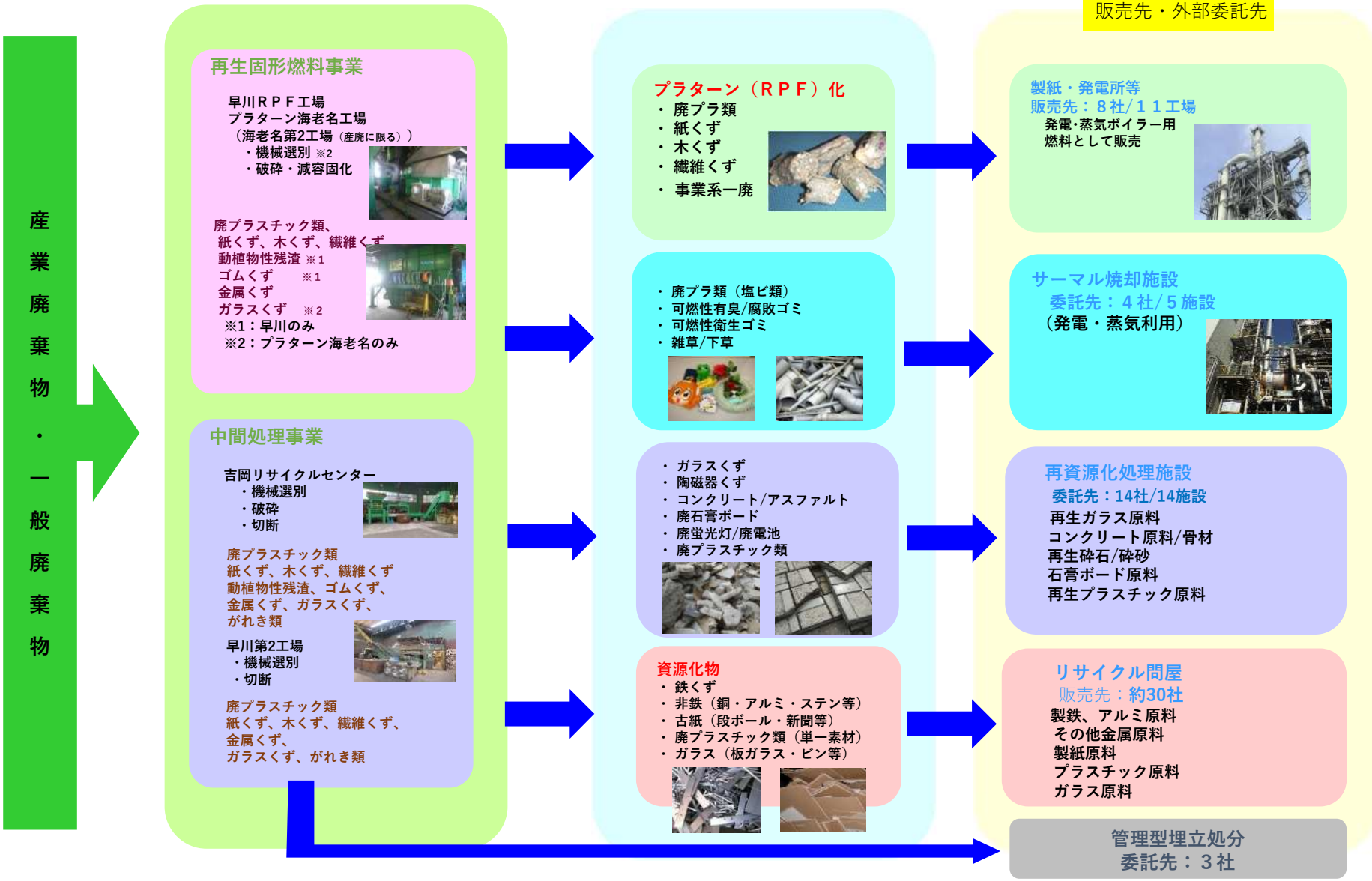
会社概要 許可内容

業の種類	管轄	許可番号	有効期限
産業廃棄物処分業	神奈川県	01422023601	令和12年5月6日
産業廃棄物収集運搬業	神奈川県	01420223601	令和10年5月31日
	東京都	13-00-023601	令和11年7月6日
	埼玉県	01100023601	令和11年5月24日
	千葉県	01200023601	令和12年5月17日
	茨城県	00801023601	令和12年9月21日
	群馬県	01000023601	令和12年2月5日
	静岡県	02201023601	令和13年6月26日
一般廃棄物処分業	綾瀬市	綾瀬市指令リ第54号	令和7年7月3日
	海老名市	海老名市指令第29号	令和9年3月31日
一般廃棄物収集運搬業	綾瀬市	綾瀬市指令リ第12号	令和7年7月3日
	海老名市	海老名市指令第32号	令和8年3月31日
	座間市	座間市指令ゼ 第345-23号	令和8年3月31日
	厚木市	厚木市指令第59号	令和8年3月31日
	大和市	大和市許可番号第202号	令和8年3月31日
	藤沢市	藤沢市許可第1号86	令和8年3月31日
	平塚市	平塚市収運許可第2-29号	令和8年4月30日

取扱いできる産業廃棄物の種類

許可品目/ 業の種類														
	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず、陶磁器くず	がれき類
神奈川県 処分						○	○	○	○	○	○	○	○	○
神奈川県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
埼玉県		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
千葉県	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
茨城県		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
群馬県		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
静岡県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

会社概要 処理フロー図



吉岡リサイクルセンター

産業廃棄物・一般廃棄物・事業系一般廃棄物を受け入れ、選別・切断・破碎などの中間処理を行い、資源化物・RPF（再生固形燃料）化原料を仕分け、焼却や埋立処分となる廃棄物の減量化を推進します。



選別処理



破碎処理（バリラ）



切断処理
（油圧・ディスク式）

早川第二工場



再生資源化が主な業務となる工場で、資源物の買い取りからOA機器類や、非鉄金属類を多く含む産業廃棄物を受け入れ再資源化処理をしています。

またHDDのディスクに残る磁気情報は、専用の機械でディスクを物理的に破壊する機密処理サービスも行っています。



早川RPF工場・海老名工場



早川RPF工場は、リサイクルできない可燃性廃棄物の燃料化事業をスタートさせた工場です。

2005年10月からは燃料化事業の専用工場として、早川RPF工場で蓄えたノウハウを活かし、プラターン海老名工場を稼働しました。

2024年度はRPFを製造し始め、25年を迎え、廃棄物の有効活用を目指しています。



燃料化事業はタズミが誇る
リサイクル方法です！

収集運搬・車両一覧

車両形式	台数	車両形式	台数	車両形式	台数
2 t 平ボディー	1	3 t パッカー車	1	10 t ダンプ車	1
3 t 平ボディー	3	4 t パッカー車	6	20 t トレーラー	1
3 t ゲート車	1	2 t ローター車	1	バン（普通車）	1
4 t 平ボディー	2	4 t ローター車	3	バン（軽）	1
5 t 平ボディー	1	6 t ローター車	3	合計31台 （トレーラーは前後で1台換算）	
6 t 平ボディー	1	8 t ローター車	1		
大型ユニック車	1	10 t ローター車	2		



平ボディー車



パッカー車



アームローダー車



大型ダンプ車



大型トレーラー



バン（普通車）



バン（軽自動車）

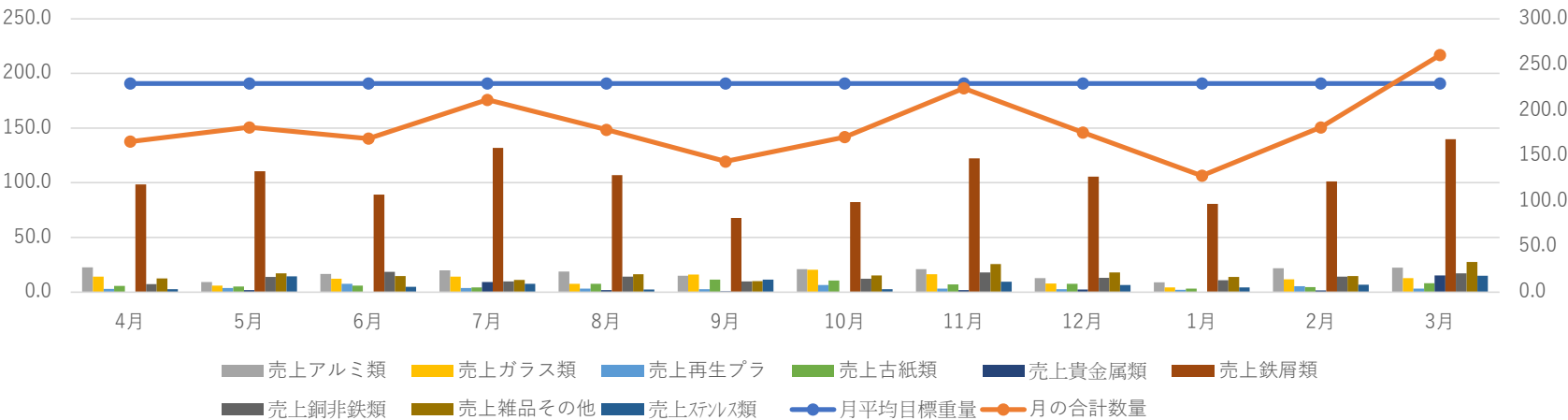
3.1 中期環境経営目標（3か年）

				2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
				基準値	目標	目標	目標
1	2025年度までに、全社再資源化量を15%アップする	全社 再資源化量（年間合計量）	t	2,088/年	5%アップ 2,192/年	10%アップ 2,297/年	15%アップ 2,401/年
		全社 再資源化量（月平均値）	t	174/月	183/月	191/月	200/月
2	2025年度までにRPF（再生固体燃料）を15,000トン/年製造出荷する	RPF出荷量	t	12,404	13,000	14,000	15,000
		RPF出荷量（月平均値）	t	1,034/月	1,083/月	1,167/月	1,250/月
3	Scope1 2025年度までに化石燃料由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減するように取り組む	化石燃料由来CO2排出量	t-CO2	483.555	507.733	531.911	556.088
		取扱量1tあたりのCO2排出量	kg-CO2/t	27.8	(1%削減) 27.5以下	(2%削減) 27.2以下	(3%削減) 27.0以下
4	Scope2 2025年度までに購入電力由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減するように取り組む	電力由来CO2排出量	t-CO2	944.324	989.698	1,038,756	1,141,959
		取扱量1tあたりのCO2排出量	kg-CO2/t	54.3	(1%削減) 53.7以下	(2%削減) 53.2以下	(3%削減) 52.7以下
5	RPF使用により削減出来た燃料重油量	燃料重油 削減量	kl	8,670	9,087	9,786	10,485
6	燃料重油削減により排出抑制出来たCO2排出削減量	CO2排出削減量	t-CO2	24,697	25,884	27,875	29,866
7	実質 CO2排出削減量の増大	実質CO2排出削減量	t-CO2	23,269	24,387	26,304	28,168

3.2 環境経営目標 結果



1. 2025年度までに、全社再資源化量を15%アップする
2024年度目標：全社再資源化量を10%アップする ⇒ **目標未達**

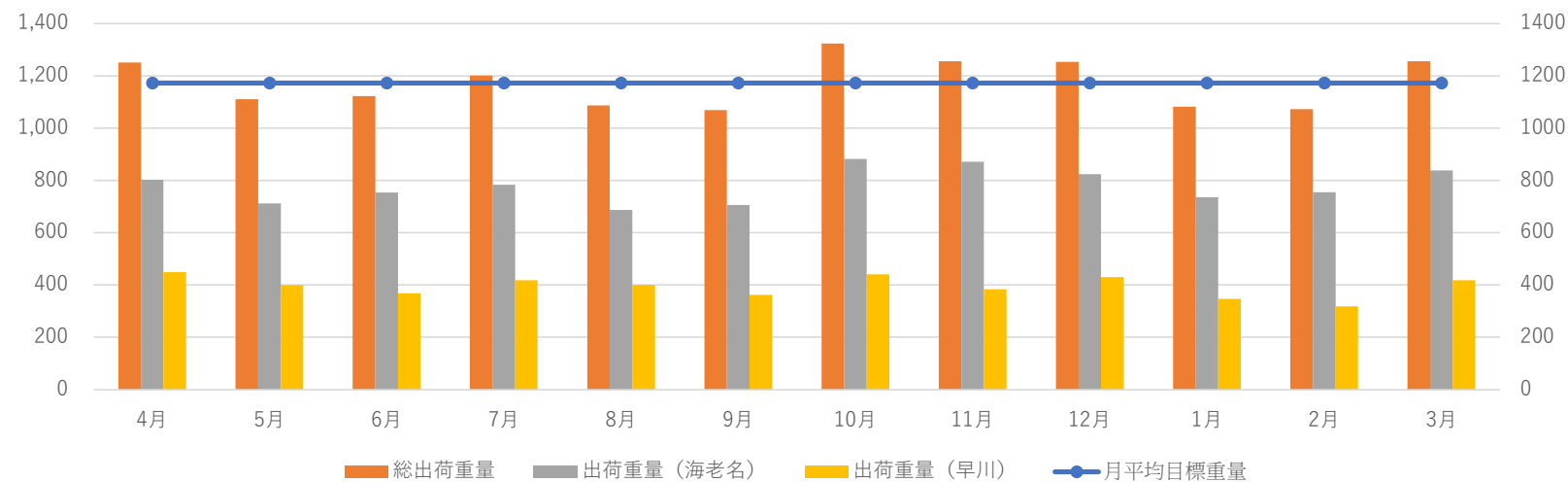


2024年度 再資源化量

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月平均目標重量	191											
月の合計数量	165.3	180.9	168.5	211.0	178.2	143.3	170.1	223.7	175.3	127.8	180.8	260.3
売上鉄屑類	98.5	110.5	89.2	131.7	107.0	67.6	82.2	122.2	105.5	80.7	101.3	139.7
売上アルミ類	22.4	9.2	16.4	19.8	18.7	14.8	20.9	20.9	12.7	8.7	21.6	22.1
売上ガラス類	14.0	5.8	12.0	14.1	7.5	16.0	20.2	16.3	7.8	4.3	11.7	12.7
売上再生プラ	2.9	3.6	7.4	3.7	3.1	2.5	6.4	3.2	2.5	2.1	5.3	3.0
売上古紙類	5.5	5.1	5.9	4.3	7.5	11.2	10.4	7.0	7.5	3.2	4.5	8.0
売上貴金属類	0.0	1.6	0.0	9.2	1.7	0.5	0.0	1.6	2.1	0.0	1.5	15.1
売上銅非鉄類	7.1	13.7	18.4	9.7	14.0	9.6	12.1	17.8	12.9	10.7	14.0	17.1
売上雑品その他	12.4	17.0	14.6	11.1	16.4	9.8	15.3	25.4	17.9	13.8	14.5	27.6
売上スチール類	2.4	14.3	4.7	7.4	2.3	11.4	2.5	9.4	6.3	4.3	6.5	14.9

3.2 環境経営目標 結果

2. 2025年度までに R P F（再生固体燃料）を15,000トン/年 製造出荷する
2024年度目標：R P F（再生固体燃料）を14,000トン/年 製造出荷する ⇒目標達成



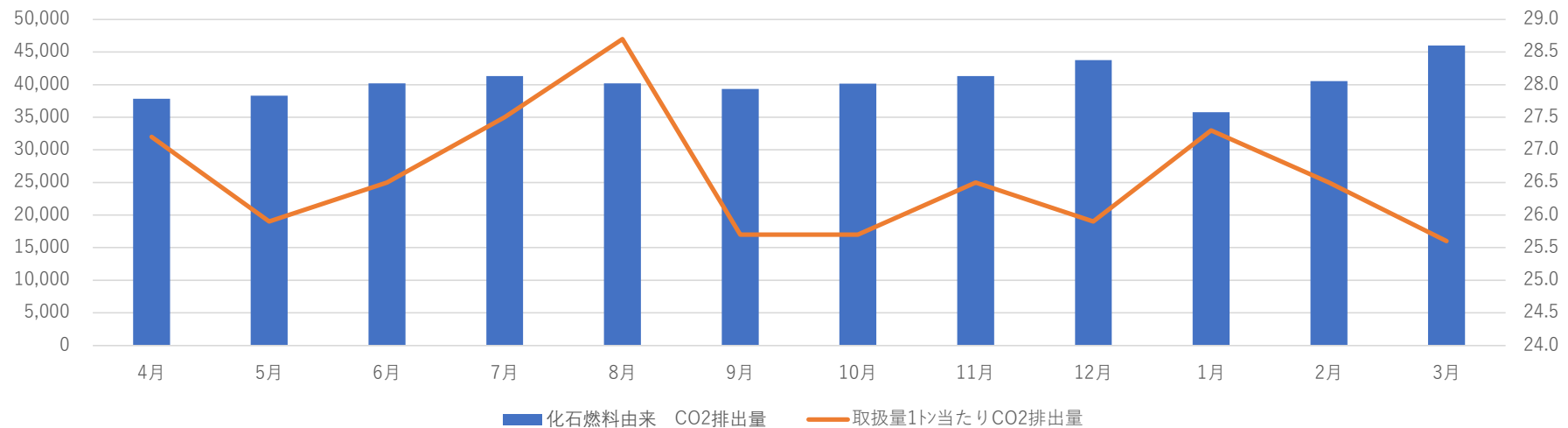
2024年度 RPF出荷実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月平均目標重量	1173											
総出荷重量	1,250	1,110	1,122	1,201	1,087	1,069	1,323	1,255	1,253	1,082	1,072	1,256
出荷重量（海老名）	802	711	754	783	686	706	882	872	824	736	754	838
出荷重量（早川）	449	399	368	418	401	362	441	383	430	346	318	418

3.2 環境経営目標 結果



3. Scope1 2025年度までに化石燃料由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減するように取り組む
2024年度目標：化石燃料由来の地球温暖化ガスを原単位で2%削減するように取り組む ⇒ **目標未達**



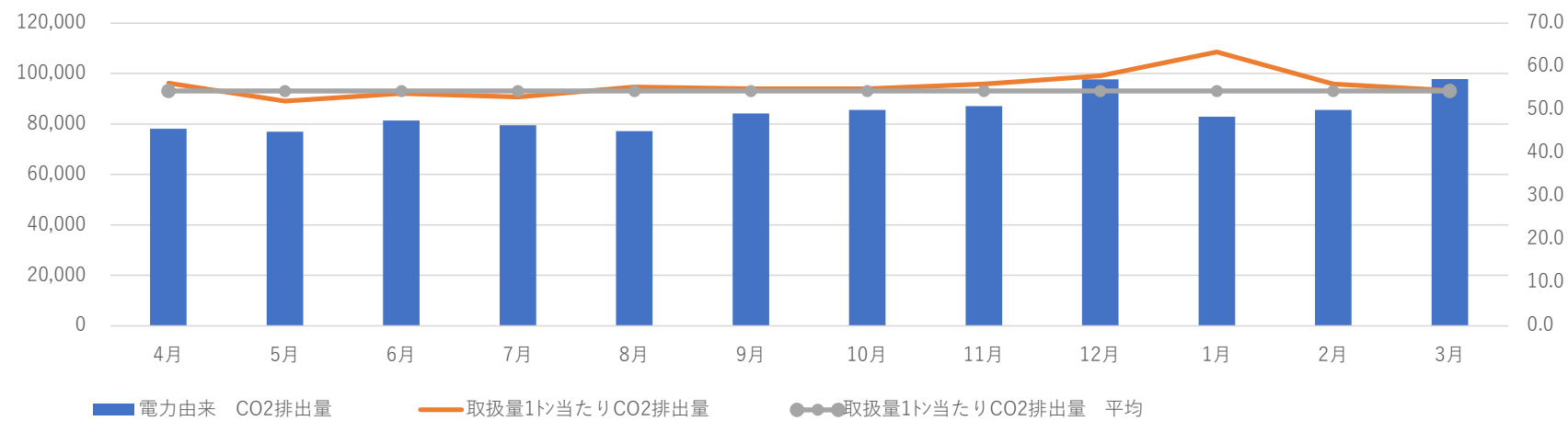
2024年度 化石燃料由来のCO2排出量の変化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
化石燃料由来 CO2排出量	37,827	38,326	40,184	41,301	40,196	39,339	40,147	41,300	43,762	35,764	40,553	46,002
取扱量1ト当たりCO ₂ 排出量	27.2	25.9	26.5	27.5	28.7	25.7	25.7	26.5	25.9	27.3	26.5	25.6

3.2 環境経営目標 結果



4. Scope 2 2025年度までに購入電力由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減するように取り組む
2024年度目標：購入電力由来の地球温暖化ガスを原単位で2%削減するように取り組む ⇒目標達成



2024年度 電力由来のCO2排出量の変化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取扱量1ト当たりCO ₂ 排出量	56.1	52.0	53.7	52.9	55.2	54.8	54.8	55.9	57.8	63.3	55.9	54.4
取扱量1ト当たりCO ₂ 排出量 平均	54.3	54.3	54.3	54.3	54.3	54.3	54.3	54.3	54.3	54.3	54.3	54.3

3.2 環境経営目標 結果

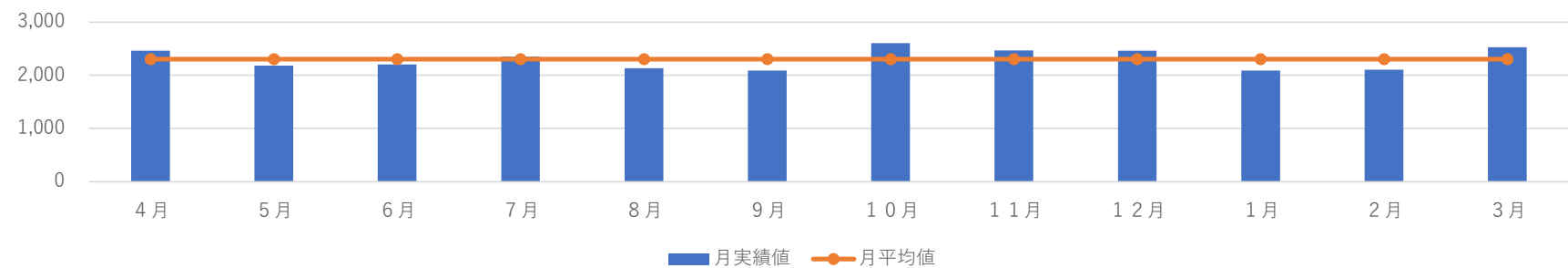


5. 実質 CO2排出削減量の増大

RPF事業によるCO2排出削減量から、事業由来のCO2排出量を引いた削減量

今期、製造したRPFを重油に換算した量は、9,148klになり、
排出抑制できたCO2は28,034CO2 tとなります。

中期目標 2024年度目標値 26,304 t -CO2



実質CO2排出量の増大：実質CO2排出削減量

前期月平均	今期月平均		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2,276	2,307	月実績値	2,464	2,182	2,203	2,354	2,130	2,091	2,603	2,470	2,463	2,091	2,106	2,527
27,312	27,684	月平均値	2,307											

3.2 環境経営目標 結果 全体

項目 \ 年度				基準値	2023年度	2024年度		
				2022年度	実績	目標	実績	評価
1	受託可燃廃棄物の焼却委託廃棄率 ◆目標0.9%削減	可燃ごみ受託量	t	14,263	16.202	-	18,425	
		焼却委託量	t	1,250	1,233	-	1,087	
		焼却比率	%	8.8	21.8	8.2	17	
2	化石燃料由来の二酸化炭素排出量 (廃棄物運搬量1t当たり排出量) ◆目標 3%削減	化石燃料由来	Kg-CO2	188,241	197.862	-	195.059	
		収集運搬量	t	8,962	10,866	-	18,337	
		CO2排出量	Kg-CO2/t	21.0	26.8	20.6	26.6	
3	電力由来の二酸化炭素排出量 (RPF生産1t当たり) ◆目標 3%削減	電力由来	Kg-CO2	959,772	1,013,644	-	1,101,638	
		再生固形燃料 RPF生産量	t	12,681	13,109	-	14,080	
		CO2排出量	Kg-CO2/t	75.7	55.6	74.3	57.4	
4	自社排出廃棄物の焼却処分量 ◆目標 3.5kg/月平均を超えない	自社廃棄物総量	Kg	1,276	1226.9	-	1457.7	
		自社焼却向け排出量	kg	42.5	46.1	42	60.8	
5	RPF使用により削減できた 燃料重油量	燃料重油 削減量	Kℓ	8,670	9,163	9,786	9,842.3	
6	燃料重油量削減量より排出抑制でき たCO2排出削減量	CO2排出削減量	t -CO2	24,697	27,307	27,875	29,330	
7	実質CO2排出削減量の増大 6 項のCO2排出削減量から、3 項 4 項の 事業由来のCO2排出量を引いた量	実質CO2排出削減量	t -CO2	23,269	25,805	26,304	27,714	

3.3 2024年度の取組結果とその評価

項目	環境活動計画	活動部門
2022年度より、全社再資源化量を10%アップする <基準年：2022年度>	目標未達；目標は未達成となったが昨年度に比べ中間処理後で約100t、資源回収で200tの増量できた。中期計画作成の際中間処理後の再資源化を規定したが回収の段階での資源化が増えている。来年度も資源回収、処理後も含めて再資源化の扱いを増やしていく	営業 吉岡RC 業務課 (※) 早川第2 (※)
2025年度、RPF（再生固体燃料）を14,000トン/年 出荷する	目標達成；昨年度も取り組んだSRFプロジェクトも引き続き取り組むことができ、吉岡センターの燃料原料強化のために選別ラインに専属配置、量の増量が出来た。業者搬入も焼却処理からの燃料化で受託量が増加した。出荷量も目標ギリギリではあったが数値を確認してきたことが良かった。来期15,000トン/年の目標を達成するために各部署において取り組みを強化することと設備管理と人材育成をしっかりと行う。	営業 吉岡RC (※) 業務課 早川・海老名 (※) 早川第2
Scope1 化石燃料由来の地球温暖化ガスを2022年度より 原単位（取扱量1トン当たり）で2%削減する 目標値：27.2kg-CO2/トン以下	目標達成；収集運搬量、処分受託量が共に106%と増えた。、化石燃料の使用量も増加したが安定した燃費が維持された。今期も3台のEVフォークリフトを導入する。車両の入替の際は環境性能が良い物へシフトすることで、目標達成が出来た。	営業 業務課 (※) 吉岡 早川第2 早川・海老名
Scope2 電力由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1トン当たり）で2%削減する 目標値：53.2 kg-CO2/トン以下	目標未達；SRF出荷目標達成に向け、生産時間が増えて電気使用量が増えた。海老名工場は生産効率が上がり原単位を95%となったが、早川工場は120%となった。破碎機、成型機の効率低下の影響は否めないが、2月末に破碎機の大規模修繕や成型機の適切な摩耗部品の交換を実施して改善されるようにして行きたい。	吉岡 早川第2 早川・海老名 (※) 総務・管理
実質 CO2排出削減量の増大 RPF事業によるCO2排出削減量から、事業由来のCO2排出量を引いた削減量 目標値：26,304トン-CO2以上	排出抑制できた地球温暖化ガスの量は年間29,330CO2トンとなり昨年度より増加した。自社活動で発生した分を差し引いても27,684CO2トンとなり、生産・出荷量が増えたことで環境負荷低減が出来た。	営業 吉岡RC 業務課 早川・海老名・早川第2 総務・管理
RPF使用により削減できた燃料重油量	RPFの生産量が増えており、その分出荷量も増えたため、削減できた量が増加している。	※取引先のRPF使用業者
燃料重油削減により排出抑制できたCO2排出削減量	RPF生産・出荷量増加に伴い、CO2排出削減量も増えている。	※取引先のRPF使用業者
実質CO2排出削減量の増大 燃料重油削減により排出抑制できたCO2排出削減量から、電力由来・RPF生産の事業由来のCO2排出量を引いた量	RPF生産量が増加（今期14,000t）しているため、使用量は大きくなっているものの、抑制効果も増えている。生産効率がCO2排出削減量に影響してくるため、適切なメンテナンスを行えるようスケジュールすることと、消耗品などは適切に交換できるように確認していく。	営業 吉岡RC 業務課 早川・海老名・早川第2 総務・管理

(※) は、各活動項目に対する主管部門とする。主管部門は毎月の部門会議にて、自部門 目標の実績を確認・検証する。

4. プラターンの森・RPF再資源化

プラターンの森計画

可燃性廃棄物燃料化事業の環境負荷低減効果の表現



煙が1つ減る!

節約した重油由来分のCO₂排出を抑制

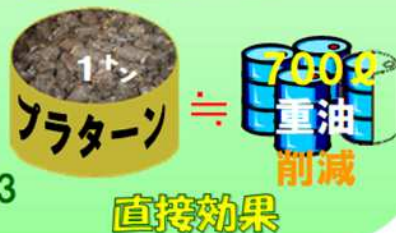
- > プラターン1トで重油700ℓ節約
- > 重油700ℓから発生するCO₂は約2トン
- > プラターン1トで約2トンのCO₂排出抑制効果がある。

排出抑制された量のCO₂を吸収する杉林の面積で表現

35年生杉
約200本



2,100m³



焼却ごみのうち1トンをプラターン(再生固形燃料)に加工するとその熱量は重油700ℓ分に相当します。上図の減った煙1つは、重油700ℓの燃焼で発生する約2トンのCO₂です。一方、1年間に2トンのCO₂を吸収固定する杉林の面積は約2,100m²で、その杉の本数は約200本になります。

つまり、焼却ごみから1トンのプラターンを製造・利用することは、2,100m²の杉林(200本の杉の木)を1年間保全したのと同じ効果がある事になります。この仮想の森を維持拡大することが「プラターンの森計画」であり、当社の燃料化事業の環境効果です。

2024年度プラターンの森の実績は…?

- ★プラターンの出荷実績：14,080 トン（重油換算 9,148 kℓ）
- ★排出抑制されたCO₂二酸化炭素は、28,034トン-CO₂
- ★プラターンの森の広さは、29.5km²、杉の本数では約295万本でした



5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の関係

法令等名称	適用項目	主な要求内容	前回確認からの変更点	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	許可の更新・変更	5年毎の許可更新 (優良は7年)	今期新たに群馬県産業廃棄物収集運搬業の許可申請を行った。 申請も問題なく完了した。	
騒音・振動・悪臭規制法、 神奈川県生活環境保全条例	騒音・振動・悪臭の 規制基準の順守	指定地域内によりその 場所ごとの規制基準値 を超えないようにする。	全ての事業所で騒音・振動・臭 気の基準はクリアできました。	

・2025年1月31日 RPF化のリサイクル方法が
再資源化等⇒再資源化へ変更

RPFがマテリアルリサイクル・ケミカルリサイクルと同等のリサイクル方法に分類され、
燃料という製品資源として国から認められました！

資源循環の発展にタズミのRPF化技術を活かし、リサイクル事業を推進していきます！

環境関連法規以外の関係

- ・労総安全衛生規則
- ・道路交通法
- ・道路法 etc…

⇒特に違反などありませんでした。

事業活動に伴う環境クレーム及び周辺住民からの情報提供

⇒特に違反などありませんでした。

5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境測定結果 記載

吉岡リサイクルセンター 騒音・振動		破碎施設		高速切断施設		油圧切断施設	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2024/6/13実施	騒音規制値 55dB以下	52	47	49	50	48	47
	振動規制値 65dB以下	30	30	47	48	49	43

早川RPF工場 騒音・振動		成形施設		破碎施設A		破碎施設B	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2024/6/5実施	騒音規制値 75dB以下	72	67	72	68	64	63
	振動規制値 70dB以下	62	70	69	69	63	62

早川RPF工場 臭気		脱臭排気施設		溜水式集塵施設	
		前期	今期	前期	今期
2024/6/3実施	臭気規制値 35以下	29	22	24	15

早川RPF工場 臭気（敷地境界）		敷地境界	
		前期	今期
2024/6/3実施	敷地境界規制値 15以下	10未満	10未満

プラターン海老名工場 騒音・振動		選別施設		破碎施設		成形施設	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2024/6/6実施	騒音規制値 75dB以下	69	60	70	69	63	65
	振動規制値 70dB以下	57	68	68	68	62	63

プラターン海老名工場 臭気		排出口①		排出口②		排出口③		排出口④	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期
2024/5/27実施	臭気規制値 30以下	12	12未満	19	16	15	12未満	12未満	12未満

プラターン海老名工場 臭気（敷地境界）		敷地境界	
		前期	今期
2024/5/27実施	敷地境界規制値 15以下	10未満	10未満

昨年度に引き続きどの部署でも大きな問題はなく、基準値以下でした！



海老名工場の集塵機
設備の更新を行いました！



プラターン海老名工場の集塵機は、
老朽化もあり、設備の更新を行いました。
来期も随時設備の更新に取り組む予定です。

6. 来期以降の目標設定

項目	環境活動計画	活動部門	期限
2022年度より、全社再資源化量を15%アップする <基準年：2022年度>	・選別作業の効率化の推進・資源化物の知識習得 ・効率的な解体作業・顧客への買上げ提案 ・部署間の協力 ・付着物や混合物、少量案件の取組み ・資源問屋に直送するデータの追加と検証	営業 吉岡RC 業務課 (※) 早川第2 (※)	2025/4～2026/3
2025年度、R P F（再生固体燃料）を 15,000トン/年 出荷する	・焼却向け廃棄物からの燃料化 ・効率的な選別作業の追求 ・品質規格に合った原料の管理 ・発熱量低下対応の廃プラ集荷の強化 ・新たな燃料品種の検討 ・顧客の要望を適える営業力強化 ・少量排出者に対する対応 ・RPF Projectで燃料化推進の継続的取組み	営業 吉岡RC (※) 業務課 早川・海老名 (※) 早川第2	2025/4～2026/3
Scope1 化石燃料由来の地球温暖化ガスを2022年度より 原単位（取扱量1トン当たり）で3%削減する 目標値：27.0kg-CO2/トン以下	・車輛毎の燃費の監視 ・確実な車輛点検・適切な対処 ・効率的な回収方法の検証 ・重機・フォークリフト作業の無駄の排除 ・バッテリーフォークリフトの導入推進 ・収集や出荷の運搬効率改善	営業 業務課 (※) 吉岡 早川第2 早川・海老名	2025/4～2026/3
Scope2 電力由来の地球温暖化ガスを2022年度より原 単位（取扱量1トン当たり）で3%削減する 目標値：52.7 kg-CO2/トン以下	・RPF製造時の電力使用量（デマンド）の監視 ・機械設備管理（消耗品交換等）の徹底 ・過負荷停止の削減 ・無駄な電気を使用しない節電（消灯・停止等） ・健康を留意した空調機器の温度設定 ・プロセスリターン削減 ・時間当りの生産能力の改善 維持	吉岡 早川第2 早川・海老名 (※) 総務・管理	2025/4～2026/3
実質 CO2排出削減量の増大 RPF事業によるCO2排出削減量から、事業由来の CO2排出量を引いた削減量 目標値：28,168トン-CO2以上	・RPFの出荷量を増加して、サプライ チェーンでのCO2排出量の削減 ・Scope1の化石由来の原単位当りのCO2排出量の削減 ・Scope2の電力由来の原単位当りのCO2排出量の削減	営業 吉岡RC 業務課 早川・海老名・早川第2 総務・管理	2025/4～2026/3
RPF使用により削減できた燃料重油量	・直接関われない部分だが、RPF生産増大が削減量に繋がる	※取引先のRPF使用業者	2025/4～2026/3
燃料重油削減により排出抑制できた CO2排出削減量	・直接関われない部分だが、RPF生産増大が削減量に繋がる	※取引先のRPF使用業者	2025/4～2026/3
実質CO2排出削減量の増大 燃料重油削減により排出抑制できたCO2排出削減量 から、電力由来・RPF生産の事業由来のCO2排出量 を引いた量	・Scope1・Scope2の環境活動計画が実質CO2排出削減量の 増大へ繋がる	営業 吉岡RC 業務課 早川・海老名・早川第2 総務・管理	2025/4～2026/3

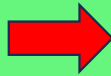
（※）は、各活動項目に対する主管部門とする。主管部門は毎月の部門会議にて、自部門 目標の実績を確認・検証する。

7. 教育訓練記録

安全パトロール 各部署で開催

各部署年間で安全パトロールの予定を立て、指摘のあった箇所について改善を行いました。

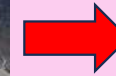
吉岡リサイクルセンター 安全パトロール



吉岡本社 柱の固定をアンカー固定して対策

吉岡本社現場において、設備と地面に固定している柱が劣化により固定金具が取れ、地震が来たときなどの安全が担保できない状態になっていました。普段の作業では気づきにくい場所でしたが、今回パトロールすることで不具合箇所を見つけ、アンカーを打ち対策が行えました。

プラターン海老名工場 安全パトロール



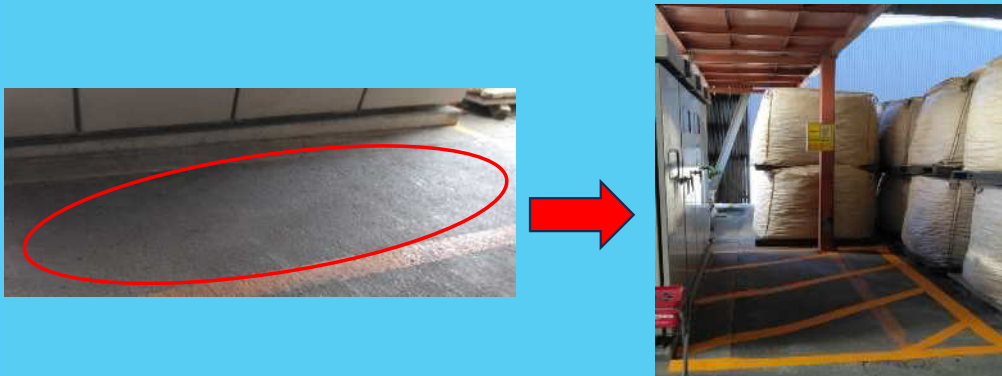
海老名工場 車両の誘導ラインを塗りなおし

海老名工場の車両受入エリアは、車の出入りが多く、誘導の目安となる黄色い線が剥がれかけていました。塗料を用意し、線の塗りなおしを行うことで視認性を良くし、誘導の際のトラブル防止対策を行いました。

7. 教育訓練記録

安全パトロール 各部署で開催

早川工場 安全パトロール



早川工場 キューピクル前の置き場 作業スペースの確保

早川工場の高電圧設備の前はスペースが開いていましたが、線もはがれ、物量が多い時はRPFのフレコンも扉ギリギリまで置いておくことがありました。再度線を引き、視認性を良くし、またスペースを広くとることでフレコンがキューピクルを開ける際に邪魔にならないように改善を行いました。

早川第二工場 安全パトロール

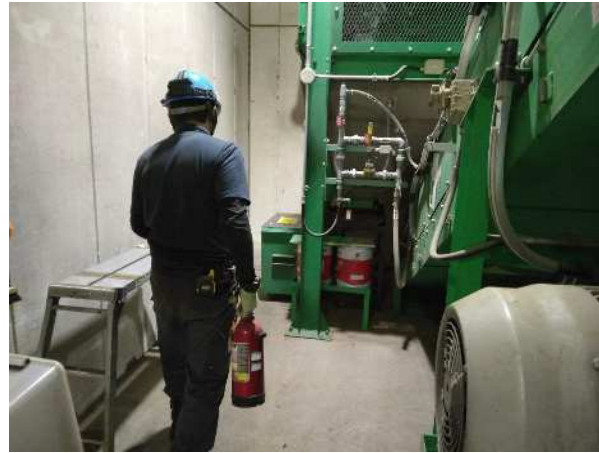


早川第二工場 消火器の位置の表示を追加

消火器の位置は消防法によって設置位置は決まっていますが、緊急時使用する際に場所が分かりづらくなっていました。表示の位置を追加し、緊急時に使用しやすくなりました。また訓練を行った後も、所定の位置に戻しやすくなる効果もありました。

7. 教育訓練記録

2024.10.17 火災センサー 消火訓練 海老名



リチウムイオン電池の混入も増え、火災センサーを昨年度取り付けたので、センサーのある磁選機からの出火を想定した初期消火・避難対応を行いました。

また海老名工場では早番・遅番と人が少ない時間帯もあるため、今後も緊急対応時の訓練は随時行います。
また訓練を行い、緊急対応マニュアルの改訂も行いました。

2024年10月17日	火災発生時の初期消火訓練
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。	
・今回海老名工場にての初期消火訓練を行い、工場によって設備車両が違いますが基本設備停止 車両誘導は変わらないので二次災害が起きないように訓練をしていこうという風に状況に応じた対応が出来るようになる。	

2024年10月17日	火災発生時の初期消火訓練
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。	
① 既に数回、火報センサーの点検があり、何らの行動が先にある、無線での一報について おうそかになっていた。どちらかといえば、生産オペレーターの責任と勝手に認識してしまっていた。研研室は、自らの仕事であり、一確記者として、必ず、自分が工場全体に発火の報告と、状況連絡すべきものと、自覚した。特に火が出た場合、消火器の持ち方依頼と救急依頼は、全員にきちんと届くように無線でおちついて、無線で報告致しませう。	

社内教育では、参加された方に感想を書いてもらい、理解度の確認、今後の教育や訓練などに役立てるようコメントをもらい、フィードバックしています。

7. 教育訓練記録

2024.7.24 業務課 緊急対応マニュアル確認と初期消火訓練

今期部署内では綾瀬消防の方と連絡を取り合い、緊急時のマニュアルの読み合わせとは別に会社に来てもらい消火器の使い方、また実際に火災が起きた際の連絡方法や、2次災害のリスクを抑えるため、どのようにすればよいのか学びました。



2024年7月24日	緊急対応マニュアル 火災訓練 実習	氏名:
火災訓練 実習を受けての感想(理解できたこと、実践すること、要望など)を記入して下さい		
火災訓練の実習を受けて、第1に人が亡くなることを考え、自分で消火は難しい。119番、110番に通報して応急処置を待つ(近くの場合は)。周囲の人に助けを求め、多人数に声を掛け、消防車へ到着してから指示を待てる体制を整えたい。実際に消火訓練は良いですが、実際に火災が起きた場合は、消火器の使い方や、2次災害のリスクを抑えるための対応方法など、新しい知識も必要です。訓練を受けたことを思い出して、実践できるようにしたいと思います。		

2024年7月24日	緊急対応マニュアル 火災訓練 実習	氏名:
火災訓練 実習を受けての感想(理解できたこと、実践すること、要望など)を記入して下さい		
火災訓練は2回行いましたが、改めて初期消火や火災通報の大変さ、車両火災時の対処方法等、新しい知識も必要なので、万が一の火災に備えて、消火器の使い方や、2次災害のリスクを抑えるための対応方法など、新しい知識も必要です。訓練を受けたことを思い出して、実践できるようにしたいと思います。		

水の入った消火器を用意してもらい、実際に使用する訓練を行いました。使用する際は火の根元を狙うことで消火しやすくなるとのことでした。また1本15秒くらい噴射し続けることができるとのことでした。また火がパッカー車の荷台から出ることを想定して訓練しましたが、扉を開けると空気が入ってさらに炎が燃えることがあるそうです。消防に電話するときにはしっかり指示を聞いて対応できるようにしたいと感じていました。

8. SDG s の取組み 社内

海老名工場 CSR活動

2024.8.3 今回初めてCSR活動の取組みとして、海老名工場周辺の美化活動を行いました。作業時は「清掃中」の表示をつけ、清掃作業のアピールと、誘導棒を持つ方も配置し、通行人の妨げにならないよう活動しました。



作業時間 30分程度で上写真のごみを拾い集めました。



今期内で、第2回目の活動が出来なかったのが、計画するのと作業時に目立ちにくいため、何かしら対策が必要と感じました。

8. SDG s の取組み 社内

あやせ工場 オープンファクトリーに参加しました！

2024年10月5日、綾瀬市内のものづくりをする企業の有志により、綾瀬市のものづくりを輝き続けるために、地域の方々、企業の方を招待してタズミのRPF事業化と回収に使用しているパッカー車の動作説明・搭乗体験を行いました！

合計で約60名の方に参加していただき、タズミの仕事・RPFについて紹介することが出来ました！



普段使っている機械もデコレーションしてみました！



9. 代表者による全体評価と見直しの結果

前回代表者による見直しと取組み結果

	前回の代表者からの指示	今期の取組み結果
a)	スクラップや古紙が多量発生する事業者は、昔からの取引業者があると思われます。しかし廃棄物しか発生しない事業者は機械の入替えや除却する時には、その処分先に困っていると推察出来ます。弊社創業者の田墨幸夫は、リヤカーひとつで資源回収業から始めました。良いものや大量発生する資源は、既に多くの業者が取り扱っています。付着物や混合物、少量やたまにしか出ないような案件にも目を向け、再資源化リサイクル量の増大目標に取り組んで下さい。また、収集運搬で資源問屋に直送する案件のデータも基準年を含めて追加して下さい。	金属リサイクルをメインに行う早川第2工場の廃棄物受託量は前年同等で早川RPF工場と連携して再資源化と燃料化でシナジーを出している。 全体で昨年度に比べ中間処理後で約160t、再生資源運搬量で200t増量した。特に鉄屑類においては中間処理後で約107t、古紙は再生資源運搬量で144t増量した。
b)	41期のSRF出荷量14,000トンの目標達成は非常に困難だと思われます。生産工場部門として営業担当を任命しました。営業戦略を立てて目標に向けて取り組んで頂きたいと思います。業務課は、引取り時に排出事業所の要求や状況を聞き取り把握して、また吉岡RCは搬入する同業者や排出事業者の要求や状況を聞き取り把握して、営業への報告を徹底し、営業は排出事業所現場や現物の確認を行ない、お客様と弊社と社会の三方良しに取組み目標達成して頂きたいと思います。早川第2工場は、他社では処分費が高リスクがある「金属に付着がある物」の燃料化等で優位性を発揮して、燃料化と再資源化物の目標達成に引き続き取り組んで頂きたいと思います。	環境経営目標計画に取り入れた。温対法の中でも温暖化ガス削減のためにRPFの利用促進を行い、化石燃料を代替することが求められている。当社が活動したい年間で化石燃料（重油換算）を9,163kL削減でき、CO2排出量は27,307トン排出抑制することが出来た。また、SRFの利用先のほとんどは製紙会社であることから、SRFを燃焼して発生した蒸気で発電と熱回収を同時に得るコージェネレーション施設、効果的な利用になった。
c)	Scope1：化石燃料由来の取扱量1トン当りのCO2排出量は、廃棄物や資源物の引取りや出荷の収集運搬業務の運搬効率に影響されます。軽い物の運搬が増えれば悪化しますし、遠距離の運搬が増えても悪化します。取組みの本質は収集や出荷の運搬効率のアップです。運搬効率改善の成果案件も併せて報告出来ないか検討願います。 Scope2：電力由来の取扱量1トン当りのCO2排出量は、海老名工場・早川工場の生産効率に影響され、吉岡RCの破碎設備や切断設備の処理効率に影響されます。今後もプロセスリターンの削減や生産効率の維持向上に取り組んで下さい。また、吉岡RCや早川第2工場では、コンプレッサーの空気漏れ等の無駄な電量消費がないか？破碎機や切断機への投入方法等で処理効率の改善の余地がないか等検証して目標達成に取り組んで下さい。	Scope1：化石燃料由来のCO2は排出量は増加したが、扱い量では削減し目標達成に繋がる（上記参照） えひめ飲料の回収のように積載量が確保できる廃棄物が増えている。吉岡RCから工場間の横持が増えていることで排出量増加になるのを大型車での横持を増やし効率化に取り組んだ。定期回収の効率については指標を持って取り組みが出来ていなかった。 Scope2：電気由来のCO2も生産量増加により増えた。早川工場の生産効率悪化は目立ってしまう。他工場の省エネ活動については引き続き意識付けと取り組みを検証する必要がある。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

今回の評価結果及び指示内容等

①評価の結果

- A) 課題であった古紙・鉄屑は、古紙の間屋直行運搬量が増加し、鉄くずは中間処理後の出荷量が増えました。その取り組みと成果に対して、評価を致します。ありがとうございました。
- B) 営業・収集運搬・前処理・処理生産の各部門での取り組みの努力が実を結んで、15,000トンも目標を達成しました。その取り組みと成果に対して、評価致します。ありがとうございました。
- C) Scope1：今期も3台のEVフォークリフトを導入する。車両の入替の際は環境性能が良い物へシフトすることで、
目標：月平均27.2以下に対して、結果：26.6で目標を達成出来ました。
Scope2：電力由来の取扱量1トン当りのCO2排出量目標 54.3kg/トンに対して 55.6kg/トン で増加しましたが、実質 CO2排出削減量（SRF燃料使用に伴う 燃料重油削減によるCO2排出削減量から、Scope 1・2の事業由来のCO2排出量を引いた量）は、
基準年2022年実績値：23,269トンに対して 25,804トンで増大し温暖化ガス排出抑制に貢献しました。

②指示内容

- a) 2025年は創業60周年となりました。再資源化への取り組みは創業から取り組んできた基幹事業です。
そして本年4月からソニー厚木TECのリサイクル事業を受託しました。現状弊社で受入れが出来ていない資源化可能な廃棄物に対しても、機械設備等の導入も含めて検討し取り組んで下さい。
- b) RPF燃料化リサイクルも、本年の1月に「再資源化事業の高度化に関する法律」で、化石燃料を代替する燃料化についても「再資源化」に該当するものとし、「製品」には燃料が含まれるものとする。と明記されました。
また、事業系の一般廃棄物に混入する廃プラ類の搬入検査も厳しくなっています。
この変化と課題をチャンスと捉えて、積極的にRPF燃料化事業に取り組んで下さい。
- c) Scope1：運搬車両も順次交換の時期が来ています。CO2排出量の検証も十分に行い導入して管理して下さい。

Scope2：電力以来のCO2排出削減量は、生産量に比例して増加してしまいます。しかしRPF燃料使用によるCO2排出削減量から出荷・生産時のCO2排出量を引いた実質CO2排出削減量の把握記録も併せて管理して下さい。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

今回の評価結果及び指示内容等

③見直し結果

①環境方針の変更の必要性

(有り ・無し)

改善担当者：代表取締役 田墨幸一郎

期限：なし

②環境目標の変更の必要性

(有り ・無し)

改善担当者：環境管理責任者 田墨啓治

期限：なし

③環境活動計画及び環境経営システム等の変更の必要性

(有り ・無し)

改善担当者：環境管理責任者 田墨啓治

期限：令和7年5月末

10. 担当者から挨拶

わたしたち株式会社タズミでは、「不要になったものを、可能な限り有効活用する」という精神で、廃棄物の中間処理、再資源化事業、そして強みであるRPF化燃料事業を行い、廃棄物の削減に取り組んでいます。

昨年度でRPF事業が25年目を迎え、会社自体も今年60周年を迎えました。
前期はRPFの生産・出荷は目標の14,000 t 出荷を目標に、前年度よりも1,000 t の
出荷増に向け、各事業所で取り組みを行いました。
目標を達成できましたので今期はさらに1,000 t 増の15,000t出荷を目標に各自取り組みます。

2024年度は行動指針を変えて従業員が積極的に目標達成に向けて取り組む1年となりました。
今回からまた新たに会社として、各部署として取り組んできた結果をご覧くださいと思います。

株式会社タズミ 管理課 永瀬優一